

医療機器設計

国内初の独立系企業

3年以内に売上高10億円



宇喜多社長

日本で初となる独立系の医療機器専門設計会社「宇喜多白川医療機器設計」が1日に設立され、事業を開始した。医療機器産業の拡大を見込み、国際標準規格に準拠した設計開発サービスを提供する。既存の医療機器メーカーのほか、他業界から医療産業に新規参入する企業などをターゲットに、3年以内に売上高10億円の達成を目指す。

梨原)の100%出資で設立された。東京都・八王子に東京本社を構えて事業を推進する。薬法や米国食品医薬品局(FDA)・欧州医療機器指令(MDD)の各要求に合致した設計開発のプロセスを保有。ISOなど国際標準規格に合致した医療機器の設計開発サービスを提供する。また、医療機器開発における薬事や品質マネジメントシステム(QMS)、新規事業創設・立ち上げのコンサルティングサービスなども手掛ける。

新会社の社長に就任した宇喜多義敬氏は、かつてテルモの医療機器(ME機器)開発事業の役員を経験。従業員には、医療機器産業と電機業界で日本のものづくりを習得した設計開発者を集めた。設計の対象となる製品は、治療や診断・監視に使用される医療機器(ME機器)。主に電気エネルギーにより稼働する能動型医療機器を主要領域として設計する。

近年の医療機器業界の傾向について同社長は、「電機業界では昨今、工場売却やEMS(電子機器の受託生産)を利用する流れがある。医療業界もまさに今から、外部を使って医療機器の設計・生産を行うことが見込める」としたうえで、「日本には設計をアウトソーシングする会社がないことに着目した」。

同社は3年以内に10億円の売上を目指す。電気業界の外部設計のシェアは、全体の約2%程度と予測される。「医療機器でもその規模の需要は確実にある」との考え。

同社はまず、新製品開発を計画する医療機器製造メーカーに対し、EMSを使って設計する文化が根付くようアプローチする。また、医療機器設計を外注することで、新規参入に乗り出す製造業などのハードルを低くし、医療機器産業のさらなる発展に貢献する。

同社は3年以内に10億円の売上を目指す。電気業界の外部設計のシェアは、全体の約2%程度と予測される。「医療機器でもその規模の需要は確実にある」との考え。

同社はまず、新製品開発を計画する医療機器製造メーカーに対し、EMSを使って設計する文化が根付くようアプローチする。また、医療機器設計を外注することで、新規参入に乗り出す製造業などのハードルを低くし、医療機器産業のさらなる発展に貢献する。